

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	北陸財務局長
【提出日】	平成24年 2月15日
【四半期会計期間】	第93期第3四半期（自 平成23年10月1日 至 平成23年12月31日）
【会社名】	オリエンタルチェーン工業株式会社
【英訳名】	ORIENTAL CHAIN MFG. CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 西村 武
【本店の所在の場所】	石川県白山市宮永市町485番地
【電話番号】	(076)276-1155（代表）
【事務連絡者氏名】	管理部 金谷 武志
【最寄りの連絡場所】	石川県白山市宮永市町485番地
【電話番号】	(076)276-1155（代表）
【事務連絡者氏名】	管理部 金谷 武志
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 （大阪市中央区北浜一丁目8番16号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第92期 第3四半期 累計期間	第93期 第3四半期 累計期間	第92期
会計期間	自平成22年4月1日 至平成22年12月31日	自平成23年4月1日 至平成23年12月31日	自平成22年4月1日 至平成23年3月31日
売上高(千円)	2,292,051	2,472,184	3,113,567
経常利益又は経常損失() (千円)	108,264	422	132,774
四半期(当期)純利益又は 四半期純損失() (千円)	104,859	7,855	75,766
持分法を適用した場合の投資利益(千円)			
資本金(千円)	1,066,950	1,066,950	1,066,950
発行済株式総数(株)	14,672,333	14,672,333	14,672,333
純資産額(千円)	792,153	789,137	812,189
総資産額(千円)	3,272,272	3,518,205	3,285,156
1株当たり四半期(当期)純利益金額又は 四半期純損失金額() (円)	7.17	0.54	5.18
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期) 純利益金額(円)			
1株当たり配当額(円)			
自己資本比率(%)	24.2	22.4	24.7

回次	第92期 第3四半期 会計期間	第93期 第3四半期 会計期間
会計期間	自平成22年10月1日 至平成22年12月31日	自平成23年10月1日 至平成23年12月31日
1株当たり四半期純利益金額又は四半期純 損失金額() (円)	2.76	0.66

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 当社は、四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については、記載しておりません。
3. 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社がないため記載しておりません。
4. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、当第3四半期は、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため、前第3四半期及び前事業年度は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期累計期間において、当社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社の異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の影響から緩やかに回復傾向に向かったものの、欧州の債務問題や円高基調の継続など、先行き不透明な状況で推移しました。

このような状況下において当社は、顧客の多様なニーズへの対応力を高め、受注拡大に向けての取り組みを継続してまいりました結果、当第3四半期累計期間の売上高は2,472百万円（前年同四半期比7.9%増）となりました。一方損益面につきましては、前年同四半期に発生した雇用調整助成金や株式割当などの特殊な要因による収入等がなくなったことにより、営業利益20百万円（前年同四半期比65.9%減）、経常損失0百万円（前年同四半期は経常利益108百万円）、四半期純損失7百万円（前年同四半期は四半期純利益104百万円）となりました。

セグメントごとの業績は次のとおりであります。

チェーン事業

国内では、搬送機械が順調に売上を伸ばし、工作機械、土木建機、食品機械が堅調に推移しました。また、輸出においては、台湾、タイなどアジア向けが堅調に推移しました。これらの結果、売上高は2,289百万円（前年同四半期比9.8%増）、営業利益は130百万円（前年同四半期比12.0%減）となりました。

金属射出成形事業

震災の影響により自動車用部品の売上が大きく減少しました。その結果、売上高は152百万円（前年同四半期比13.3%減）、営業利益は13百万円（前年同四半期比46.0%減）となりました。

その他事業

その他事業の売上高は30百万円（前年同四半期比5.3%減）、営業利益は22百万円（前年同四半期比5.4%減）となりました。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期累計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

(3) 研究開発活動

当第3四半期累計期間における研究開発活動の金額は、3,083千円であります。

なお、当第3四半期累計期間において、当社の研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(4) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

今後の経済の見通しにつきましては、震災後の落ち込みからの回復が見込まれる一方、原材料価格の高騰、為替相場等不透明な要因も多く、当社を取り巻く環境は厳しい状況が続くと見込まれます。当社におきましては、これらの状況を踏まえて、当事業年度より「第3次3カ年経営計画」を実施し、厳しい状況の下でも継続して利益を確保できる体質改善に取り組んでおります。

(5) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

資産・負債及び純資産の状況

(資産)

当第3四半期会計期間末における総資産は3,518百万円で前事業年度末に比べて233百万円増加しました。これは、前事業年度末と比べ、現金及び預金が68百万円、たな卸資産が71百万円、売掛債権が181百万円増加したことを主要因として、流動資産が2,413百万円と315百万円増加したこと、また、有形固定資産が72百万円減少したこと等により、固定資産が1,105百万円と81百万円減少したことによるものです。

(負債)

当第3四半期会計期間末における負債合計は、2,729百万円で、前事業年度末と比べ256百万円増加しました。これは、前事業年度末に比べ仕入債務が49百万円、一年内返済長期借入金が24百万円増加し、未払金が13百万円、未払法人税等が5百万円減少したことを主要因として流動負債が1,696百万円と69百万円増加したこと、また社債が152百万円、退職給付引当金が18百万円、長期借入金が17百万円増加したこと等により、固定負債が1,032百万円と186百万円増加したことによるものです。

(純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産は、789百万円で、前事業年度末と比べ23百万円減少しました。主な要因は、四半期純損失7百万円とその他有価証券評価差額金の減少18百万円によるものです。

この結果、自己資本比率は22.4%になりました。

(6) 経営者の問題認識と今後の方針について

当社を取り巻く事業環境は、依然として厳しい状況が継続すると認識しております。当社といたしましてはこのような状況下でも黒字の継続を最重要課題と認識し、将来的に安定的に利益を計上できる体質にするための抜本的な構造改革を継続し、企業発展の基盤の強化に取り組んでまいります。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	25,000,000
計	25,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成23年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成24年2月15日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	14,672,333	14,672,333	大阪証券取引所 (市場第2部)	単元株式数1,000株
計	14,672,333	14,672,333	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
自 平成23年10月1日 至 平成23年12月31日	-	14,672,333	-	1,066,950	-	168,230

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成23年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成23年12月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式（自己株式等）	-	-	-
議決権制限株式（その他）	-	-	-
完全議決権株式（自己株式等）	(自己保有株式) 普通株式 41,000	-	-
完全議決権株式（その他）	普通株式 14,534,000	14,534	-
単元未満株式	普通株式 97,333	-	-
発行済株式総数	14,672,333	-	-
総株主の議決権	-	14,534	-

【自己株式等】

平成23年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（%）
オリエンタルチエン工業株式会社	石川県白山市 宮永市町485番地	41,000	-	41,000	0.28
計	-	41,000	-	41,000	0.28

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期会計期間（平成23年10月1日から平成23年12月31日まで）及び第3四半期累計期間（平成23年4月1日から平成23年12月31日まで）に係る四半期財務諸表について有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

3．四半期連結財務諸表について

当社は、子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1【四半期財務諸表】
 (1)【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成23年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	392,589	461,114
受取手形	508,151	708,597
売掛金	524,205	505,247
有価証券	5,454	5,457
商品及び製品	149,652	173,237
仕掛品	309,719	322,084
原材料及び貯蔵品	180,414	215,480
その他	28,163	22,189
貸倒引当金	331	350
流動資産合計	2,098,018	2,413,059
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	244,342	231,826
機械及び装置(純額)	402,002	345,970
土地	242,887	242,887
建設仮勘定	6,157	6,661
その他(純額)	37,522	32,917
有形固定資産合計	932,913	860,263
無形固定資産		
投資その他の資産	6,641	2,773
投資有価証券	138,941	119,210
その他	116,961	131,199
貸倒引当金	8,320	8,300
投資その他の資産合計	247,583	242,109
固定資産合計	1,187,137	1,105,146
資産合計	3,285,156	3,518,205

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成23年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形	536,096	2 576,906
買掛金	169,125	177,433
短期借入金	744,033	768,160
未払法人税等	10,952	5,951
その他	166,429	2 167,752
流動負債合計	1,626,636	1,696,202
固定負債		
社債	44,000	196,400
長期借入金	485,050	502,270
退職給付引当金	195,156	213,652
役員退職慰労引当金	66,200	65,950
その他	55,922	54,592
固定負債合計	846,330	1,032,865
負債合計	2,472,966	2,729,068
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,066,950	1,066,950
資本剰余金	168,230	168,230
利益剰余金	415,989	423,844
自己株式	4,417	4,417
株主資本合計	814,772	806,917
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	10,552	7,712
繰延ヘッジ損益	13,135	10,067
評価・換算差額等合計	2,583	17,780
純資産合計	812,189	789,137
負債純資産合計	3,285,156	3,518,205

(2) 【四半期損益計算書】
 【第 3 四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第 3 四半期累計期間 (自 平成22年 4 月 1 日 至 平成22年12月31日)	当第 3 四半期累計期間 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成23年12月31日)
売上高	2,292,051	2,472,184
売上原価	1,879,770	2,082,385
売上総利益	412,280	389,799
販売費及び一般管理費	351,427	369,072
営業利益	60,852	20,726
営業外収益		
受取利息	560	138
受取配当金	2,014	2,229
株式割当	13,971	-
その他	68,928	8,493
営業外収益合計	85,475	10,861
営業外費用		
支払利息	25,231	22,363
手形売却損	1,700	971
その他	11,131	8,676
営業外費用合計	38,063	32,011
経常利益又は経常損失 ()	108,264	422
特別利益		
固定資産売却益	-	99
投資有価証券売却益	5,106	-
役員退職慰労引当金戻入額	1,071	-
特別利益合計	6,177	99
特別損失		
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	563	-
固定資産廃棄損	2,795	123
固定資産売却損	-	300
投資有価証券評価損	-	2,017
特別損失合計	3,359	2,441
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失 ()	111,082	2,764
法人税、住民税及び事業税	6,223	5,090
法人税等合計	6,223	5,090
四半期純利益又は四半期純損失 ()	104,859	7,855

【会計方針の変更等】

該当事項はありません。

【四半期財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

該当事項はありません。

【追加情報】

当第3四半期累計期間
(自平成23年4月1日
至平成23年12月31日)

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)

第1四半期会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

(法人税率の変更等による影響)

「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」(平成23年法律第114号)及び「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」(平成23年法律第117号)が平成23年12月2日に公布され、平成24年4月1日以降に開始する会計年度から法人税率の引き下げ及び復興特別法人税の課税が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定の実効税率は従来の40.40%から、平成24年4月1日に開始する会計年度から平成26年4月1日に開始する会計年度に解消が見込まれる一時差異等については37.75%に、平成27年4月1日に開始する会計年度以降に解消が見込まれる一時差異等については35.38%となります。この税率変更による影響は軽微であります。

【注記事項】

(四半期貸借対照表関係)

1 受取手形割引高及び営業外受取手形割引高

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成23年12月31日)
受取手形割引高	142,901千円	8,265千円
営業外手形割引高	28,054千円	21,582千円

2 四半期会計期間末日満期手形

四半期会計期間末日満期手形の会計処理については、当四半期会計期間末日が金融機関の休日でしたが、満期日に決済が行われたものとして処理しております。当四半期会計期間末日満期手形の金額は、次のとおりであります。

支払手形	153,148千円
設備支払手形(流動負債その他)	1,217千円

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書及び前第3四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
減価償却費	138,388千円	125,957千円
のれんの償却額	3,867千円	3,867千円

(株主資本等関係)

前第3四半期累計期間(自平成22年4月1日至平成22年12月31日)

配当に関する事項

該当事項はありません。

当第3四半期累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

配当に関する事項

該当事項はありません。

(持分法損益等)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期累計期間(自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期損益計 算書計上額 (注)3
	チェーン事 業	金属射出 成形事 業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	2,084,558	175,448	2,260,006	32,044	2,292,051	-	2,292,051
セグメント間の内部売上 高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	2,084,558	175,448	2,260,006	32,044	2,292,051	-	2,292,051
セグメント利益	148,725	25,087	173,812	23,698	197,510	136,657	60,852

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸事業等であります。

2. セグメント利益又は損失の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期累計期間(自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期損益計 算書計上額 (注)3
	チェーン事 業	金属射出 成形事 業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	2,289,625	152,200	2,441,826	30,357	2,472,184	-	2,472,184
セグメント間の内部売上 高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	2,289,625	152,200	2,441,826	30,357	2,472,184	-	2,472,184
セグメント利益	130,812	13,554	144,366	22,424	166,790	146,063	20,726

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸事業等であります。

2. セグメント利益又は損失の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり 四半期純損失金額()(円)	7.17	0.54
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は四半期純損失金額() (千円)	104,859	7,855
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額又は四半期 純損失金額()(千円)	104,859	7,855
普通株式の期中平均株式数(千株)	14,631	14,630

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、当第3四半期累計期間は1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため、前第3四半期累計期間は潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年2月14日

オリエンタルチエン工業株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 近藤 久晴 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 篠崎 和博 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているオリエンタルチエン工業株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの第93期事業年度の第3四半期会計期間（平成23年10月1日から平成23年12月31日まで）及び第3四半期累計期間（平成23年4月1日から平成23年12月31日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、オリエンタルチエン工業株式会社の平成23年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。